

共創型対話学習研究所研究大会 2021

「VUCA」を乗り越える「対話」の創出

今、まさに「VUCA」の時代と言えます。「VUCA」とは「Volatility（激動）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（不透明性）」の頭文字をつなげた言葉で、予測不能な状態を表わします。世界はコロナ禍によって数々の激動（V）が起こり、生活・健康・経済の不確実性（U）が高まり、複雑性（C）の中で未来が不透明（A）となっています。

このような中、様々な制約を強いられている子どもたちに、私たち教師は、何を伝えていけばよいのでしょうか。それは、世界中の人々が「学び」で得た英知を結集させてこの現状を乗り越えようとしているということです。つまり、学ぶということはテストで良い点を取るためではなく、人々の命を救ったり、安心な暮らしを考えたりと、人々を幸福にするための営みであり、学ぶことの尊さを考える機会でもあるわけです。

私たちが追究してきた「対話」のある学び。「三密」（密閉・密集・密接）を避け、ソーシャルディスタンスを考えなければならない現状において、対話学習もまた新たな知見が求められています。「VUCA」の時代に遭遇したことを不利益と捉えず、子どもの学習権を保障しながら、いかに「対話」を深化していくかという喫緊の課題をもって信州に集結し、知恵を創出し、大いに語り合いたいと考えています。

■コンテンツ

1. 大会テーマ

「VUCA」を乗り越える「対話」の創出

2. 日時

2021年12月11日（土）13:00～17:00

3. 場所

信州大学教育学部 図書館2F

4. 内容

12:30～

受付

13:00～13:15

開会の言葉 青木一大会委員長挨拶（信州大学）

13:20～13:40

実践発表1：本山修（信州大学教職大学院・長野県松本県ヶ丘高等学校）「高校倫理における『主体的・対話的で深い学び』の具体的実践と考察」

13:45～14:05	実践発表2：吉村里織（兵庫県姫路市白鳥小学校） 「コロナ禍での学び～総合的な学習を中心に～」
14:10～14:30	実践発表3：若森達哉（奈良教育大学附属中学校） 「ESDの実践力を高める道德の授業」
14:40～14:50	休憩
14:35～14:55	実践発表4：早川祐真（千葉県横芝光町立横芝小学校） 「地域に根を張り、世界へ羽ばたける力を持つ児童の育成—グローバル科の提案—」
15:00～15:30	実践発表者を囲んだラウンドテーブル
15:30～15:50	各ラウンドテーブル報告
16:00～17:00	多田孝志所長講演 「新たな時代の学びの基層を問い直す」
17:00	閉会の言葉
17:30～	長野駅近く情報交換会（状況によって中止の場合あり）

■参加方法

①対面参加の場合は、コロナワクチン2回接種または1～2日以内のPCR検査済みが証明できるものをご持参いただき、受付にてご提示をお願いいたします。宿泊される場合は、それぞれで長野駅周辺の宿泊施設を各自でご予約ください。

②Zoom参加の場合は、後日参加方法をご連絡いたします。

※ご参加いただける場合は、①お名前、②ご所属、③メールアドレス ④参加方法（会場参加・ZOOM参加のどちらかを明記をお書きいただき、下記の事務局アドレスまで、下記の受付期間をご連絡ください。

★参加申し込み受付期間 10月25日（月）～11月26日（金）

★申込先 研究所事務局 o-yujiro@kanazawa-gu.ac.jp